

自らの学びを評価し、問い続ける子の育成 —令和の日本型学校教育に必要な資質・能力とは—

2026年10月2日（金）

大阪大谷大学 今宮 信吾

授業参観

当日の授業を参観してご紹介します。

次期学習指導要領

深い学び

多様性

余白

学習評価

情報活用

カリキュラム・マネジメント

第1部 次期学習指導要領の基本的な方向性

第1章 子供たちを取り巻く社会や学校の現状と展望

第2章 次期学習指導要領に向けた基盤となる考え方

- (1) 多様な子供たちの「深い学び」を確かなものにするための3つの方向性
- (2) 「深い学び」の実現と「確かな知識」の習得
- (3) 自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手の育成

第3章 「深い学び」を実現するための分かりやすく使いやすい学習指導要領

- (5) 授業づくりを支える「デジタル学習指導要領」の実現
- (6) 「統合的な理解・総合的な発揮」を生かした単元構想・授業づくり
- (7) 「見方・考え方」の再整理
- (8) 学習の基盤となる資質・能力の再整理
- (9) デジタル学習基盤を前提とした学びの在り方
- (10) 個に応じた学習過程の充実
- (11) 構造化を踏まえた学習活動の在り方

第4章 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程

- (1) 柔軟な教育課程の必要性とその基本的な方策
- (2) 義務教育段階における「調整授業時数制度」の創設等
- (3) 高等学校段階における単位制の柔軟化等
- (4) 個別の児童生徒に係る特別の教育課程の編成・実施

第5章 「余白」の創出を通じた教育の質の向上

- (1) 「余白」の創出に関する基本的な考え方
- (2) 各学校の授業時数の適正化や平準化
- (3) 構造化や調整授業時数制度を踏まえた教科書の精選
- (4) 統合的な理解・総合的な発揮を踏まえた各教科等における内容の整理・精選

第6章 豊かな学びに繋がる学習評価

- (1) 前回改訂で目指した方向性と現行の学習評価の課題
- (2) 「学びに向かう力、人間性等」の評価の在り方
- (3) 「統合的な理解・総合的な発揮」との関係性の整理
- (4) シンプルで資質・能力の育成に繋がる学習評価のプロセスの整理

第7章 情報活用能力の抜本的向上と質の高い探究的な学びの実現

- (1) 情報活用能力の抜本的向上と質の高い探究的な学びの実現
- (2) 情報活用能力の抜本的向上と質の高い探究的な学びの実現

第8章 次期学習指導要領に向けた必要な方策

- (1) 調整授業時数制度の在り方
- (2) 高等学校の教科・科目構成・標準単位の在り方
- (3) カリキュラム・マネジメントの在り方
- (4) 高等学校入学準備の在り方
- (5) 「社会に開かれた教育課程」の在り方
- (6) 諸条件の整備の在り方

第2部 基本的な方向性を踏まえた各教科等の方向性

第1章 各学校段階における基本的な方向性

- 総則に係る諸事項
- 幼児教育
- 特別支援教育
- 高等学校定時制・通信制

第2章 各教科・科目等の基本的な方向性

- 国語
- 社会、地理歴史、公民
- 算数、数学
- 理科
- 理数
- 生活
- 芸術
- 家庭
- 情報・技術、情報
- 体育、保健体育
- 外国語活動、外国語
- 産業教育
- 道徳教育
- 総合的な探究の時間
- 特別活動

第3章 個別の児童生徒に係る特別の教育課程の創設

- 不登校児童生徒に係る特別の教育課程
- 特定分野に特異な才能のある児童生徒に係る特別の教育課程

第3部 資料編

…P400 1

ふりかえり

メタ認知

モニタリング

めあて

理由

事例

見通し

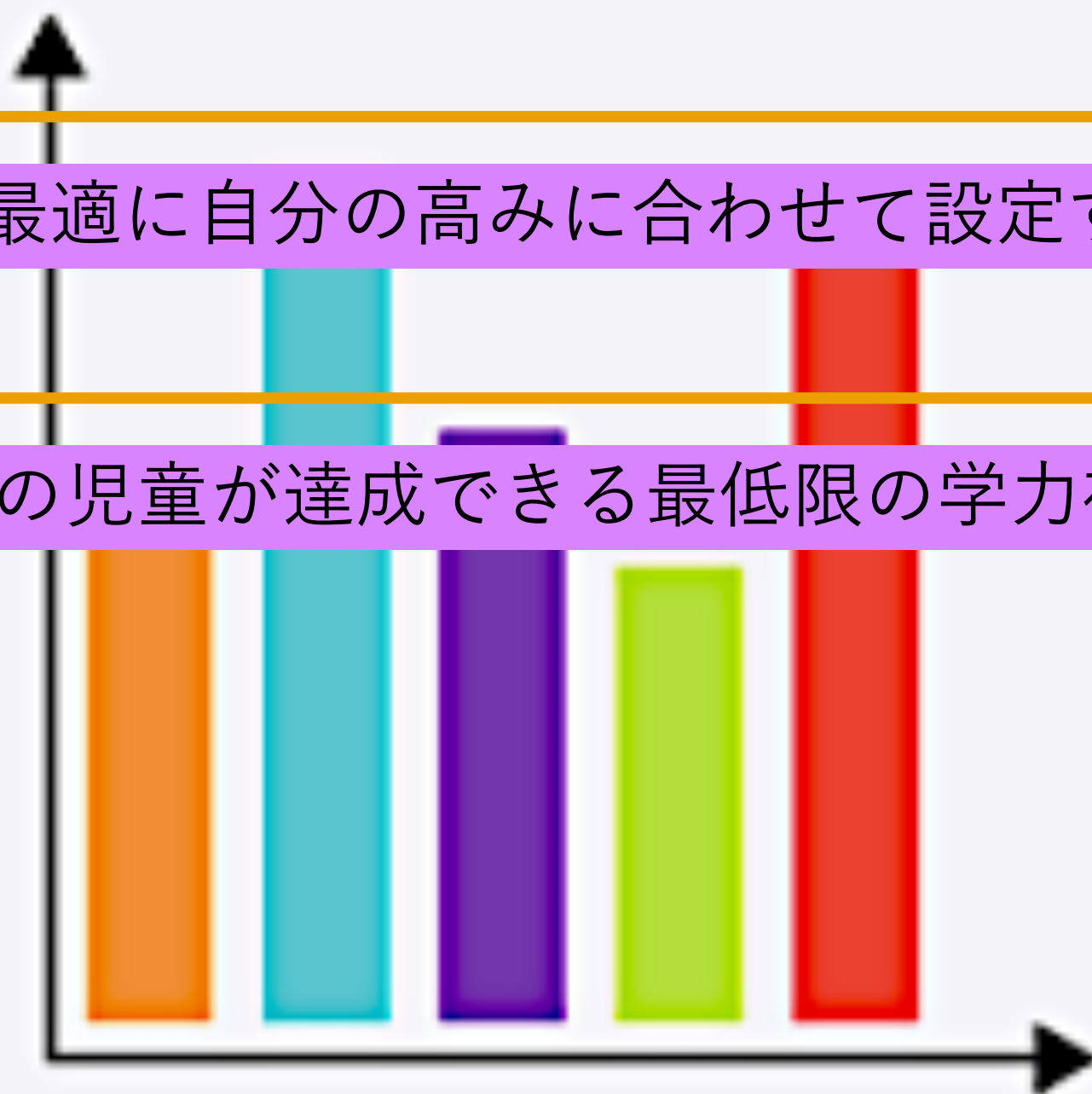
内容

活動

学び方

コントロール

学びの自覚化 = 深い学び



A

A 個別最適に自分の高みに合わせて設定する。

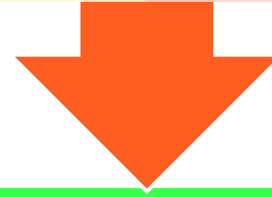
B

B 多くの児童が達成できる最低限の学力補償

R（目の前の子どもたちの実態を探る）

成果

課題

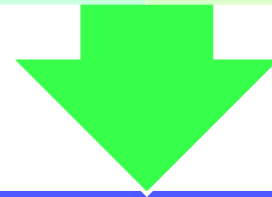


個別最適な学び

期待する子ども像を複数設定する

B基準を決める

A基準を設定する



評定と評価

指導の手立て

Bに到達させるために

Aに向かわせるために

語彙力

量的

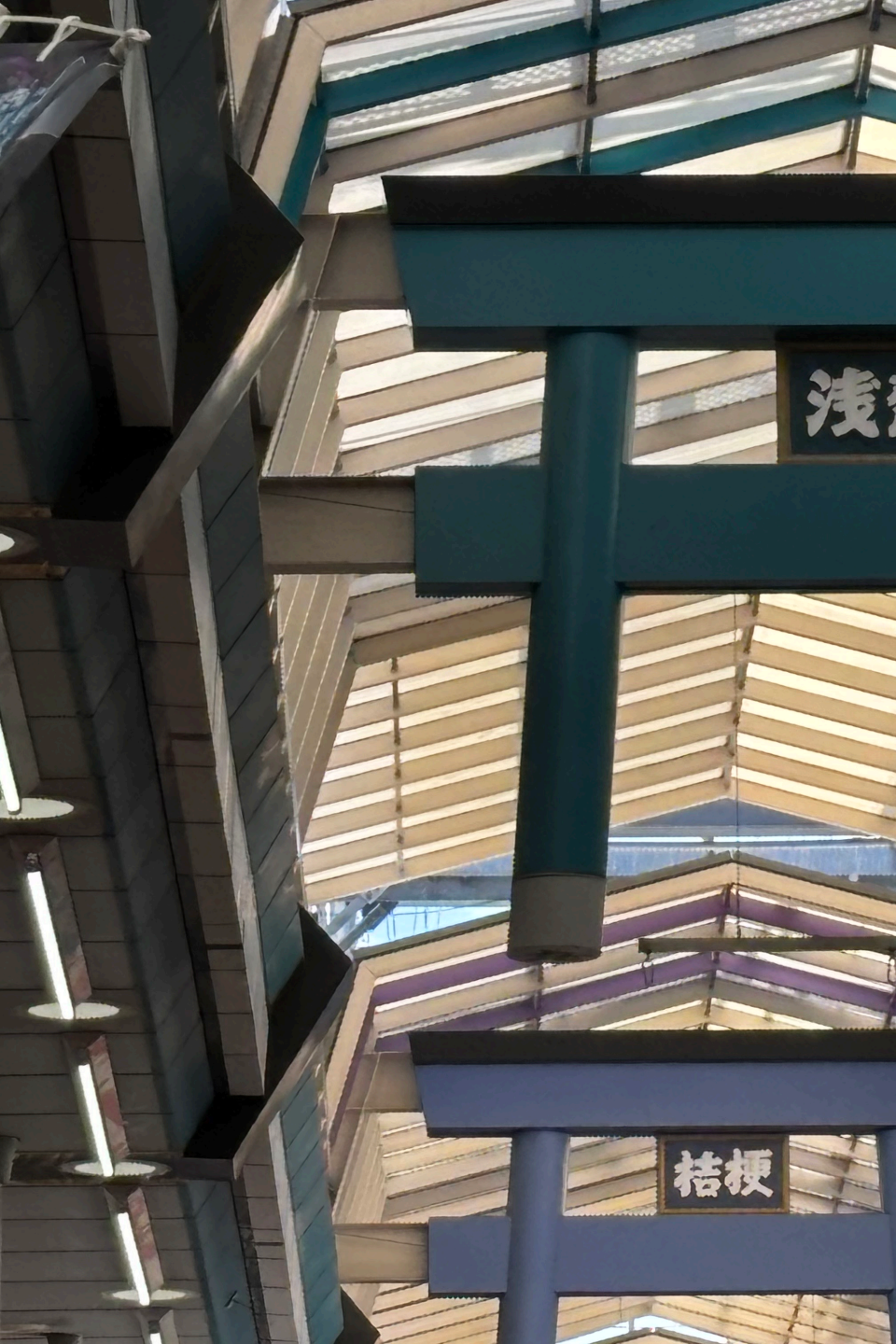
どれだけことばを知っているか

AIとの関連（記号接地） ピアジェの分化

質的

状況に合わせて使えるか

文脈や状況から想像できるか



記号接地：手続的知識
知のネットワーク

input

output

内言



思考



外言

一次的表現語彙

思考語彙

二次的表現語彙

三次的表現語彙

応答（へえ なるほど）

対話のための方法

受け止め（それいいね）

しりとり（相手の話を受けて）

問い返し（なぜそう考えましたか）

ダウト反応（わざととぼける）

働き方

学校

存続

高美小学校に期待すること

- ☐ 問い続ける児童と教師の育成
- ☐ 授業が創作物であるという意識の醸成
- ☐ 未来を見据えた日々の教育実践の継続
- ☐ 教育の旬を捉え、学び続ける児童と教師
- ☐ 地域に根ざした教育の展開
- ☐ 自らの学校を評価する教師集団